

～すべての子どもに、どのクラスでも～

仲間とつながり合い、支え合う関係づくりを進め、安心感の中で、どの子にとってもやさしくて、わかる、できる学習を目指す

・・・それが、吉田西小の特別支援教育です。

何らかの困難や困り感を抱えながらがんばっているすべての子どもたちに、よりよい援助を提供できるように、具体的な取組を行っています。前号(④～⑥)に引き続き紹介していきます。



⑦教育相談・学習相談期間に、また日常的なかかわりでも、心に寄り添って情緒面の安定を図りながら、学習面の遅れを援助したり、補ったりしています。

吉田西小の子どもたちは、素直で、明るく、学習にも運動にも元気に取り組み、一人一人がその子なりのよさや長所をもっています。一方で、読むのが苦手、音読が苦手、字が上手に書けない、漢字を覚えるのが苦手、話すのが苦手、計算が苦手、歌や楽器が苦手、絵や裁縫が苦手、走るのが遅い、跳び箱が苦手、水泳が苦手など、すべてと言ってもよいぐらいの子どもたちが、学習面で何らかの苦手意識や困り感をもっています。

さらに、人と上手にかかわれない、集団で規律を守って行動するのが苦手、集中が長く保てない、落ち着きがなくおしゃべりや動きが止められない、感情のコントロールがうまくできない、場の空気や人の気持ちが上手に読めない、判断や我慢が苦手で、やりたいこと言いたいことを、すぐに言動に移してしまうなど、行動面が未熟で、うまくいかない子もいます。また心理面で何らかの不安をもっていたり、経験不足などから年齢相応にできなければならないことが身に付いていなかったりする子もいます。

吉田西小では、5月と11月に教育相談を実施しているほか、子どもたちの様子から適宜教育相談を実施しています。



⑧幼稚園・保育園、中学校との連携をとり、子どもの特性や効果的な支援策など、情報・援助方針を引き継ぎます。

入学時には新しい環境に戸惑い、迷うことも多いものです。それまでの生活でやってこれたことを環境が変わっても継続していけるようにしていくことが大切です。そのため、学校間の連携を強化し情報・援助方針の引継ぎを確実に行っていくことをこころがけています。学年が変わるときも同様に担任同士の連携を密にし、情報・援助方針の引継ぎを行っていきます。



- 特別支援教育コーディネーター（発達、学習・行動面の困難などの相談）： 福島久子
 - 市学校教育サポートセンター・スクールカウンセラーコーディネーター（心の問題、子育ての悩み、外部の相談機関等の利用）： 坂本美保
 - いじめ・不適切な指導等担当：
教頭（橋本俊明）、辻 泰臣
- ※学校以外では、「下野市学校教育サポートセンター」0285-52-1140（直通）も利用できます。